

世帯と人口

10月1日現在・()内対前月比

世帯	45,869	(+336)
人口	121,367人	(+741)
男	61,827人	(+371)
女	59,540人	(+370)

えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

「わあ、すごい！たくさん実がなってるね」と、子どもたちから歓声が(大谷地区で)



えびな模様

「土の恵み」この手にふれて

海老名駅前広がる近代的な街並みから、歩いて約10分。市役所周辺には、今でも広大な田園風景が広がっています。先月、この一角で「ふれあい農業・ラッカセイの掘り取り」が行われ、訪れた大勢の親子が食べごろのラッカセイを収穫しました。

「ふれあい農業」で新鮮野菜を収穫

「ふれあい農業」は「土の日」同様、市民のみならず農業への理解を深めてもらおうと、市が農業関係者の協力を得て行っているものです。ラッカセイをはじめ、トマト、トウモロコシ、サツマイモ、ジャガイモ、ナシなどの収穫が、四季を通じて行われています。休日に家族で収穫が楽しめること、新鮮でおいしい農作物が廉価で購入できることなどから、口コミで評判を呼び、多くの人が訪れています。

ラッカセイの掘り取りに参加していた井手容子さん(上郷在住)は、今回が2回目。「おとし福岡から転入してきましたが、福岡では、周りに土いじりできる場所が無かったため、去年、初めて掘り取りをしたときは、家族じゅうが興奮。子どもたちは広い畑を声を上げて駆け回るし、私たち夫婦も、掘り取りが楽しくて、顔に泥がつくのも忘れ、9時も収穫してしまいました」。その日の夕食では、掘り取りの話でもちきりだったそうで、収穫したラッカセイはゆでておやつにしたいだけでなく、甘辛く煮た五目煮にして楽しんだそうです。「家族で遊園地やドライブに行くのも楽しいけど、掘り取りにはまた違った楽しさがあります。次はジャガイモ掘りに挑戦したいですね」と。

一方、5年前から掘り取りに参加している益子順子さん(浜田町在住)は、時期が近づくと、広報紙で開催日を手チェックし、トウモロコシやトマトの収穫を欠かさないそうです。「新鮮さはもちろんですが、自宅近くに会場があるのも魅力です」。特にトマトは、栽培している環境によって、毎回違う甘みや酸味が味わえて飽きがこないとのこと。「夫も私も健康のため、いつも野菜は食べていますが、掘り取り日は、普段以上に食べてしまいます。さっきまで太陽を浴びて育っていたトマトだと思つと無駄にはできません」。

太陽の光を浴び、栄養をたっぷり蓄えた農作物を、子どもから大人まで収穫できる「ふれあい農業」は、その名のとおり、人と農作物、人と人同士が触れ合える場なのかもしれません。

◆今後の掘り取り予定◆

ジャガイモ 12月7日(中新田)・14日(大谷)
※詳細は、本紙12月1日号でお知らせします。